

2、多賀城市地域福祉活動計画策定に係る多賀城市地域福祉計画市民アンケートの分析結果について

(1) 目 的

第1期多賀城市地域福祉活動計画（以下、活動計画と呼ぶ。）の策定に当たり、多賀城市の実施した無作為抽出の市民アンケートが充実していることから、その調査結果を用い、分析を通して、地域住民の意識の把握を行い、それに基づく仮説を立てることで、福祉ニーズを把握することを目的として実施しました。

(2) 市民アンケートの実施内容及び結果について

調査対象者：令和2年1月1日時点で本市に居住する20歳以上の住民から
男女2,000人の無作為抽出

調査実施期間：令和2年2月21日から令和2年3月13日

配布件数：2,000件 回収数：1,058件 有効回収率：52.9%

(3) 分析に当たっての市民アンケートの取扱いについて

市民アンケートの全29項目の質問事項から、活動計画の策定にあたり参考にすべきと思われるものを取捨選択しながら抽出し、分析を行い、アンケート内容が変更されないように配慮しながら編集しました。

※ 市民アンケートの全項目については、多賀城市ホームページ内の「市政情報 > 施策・計画 > 各種計画・方針 > 地域福祉計画 > 多賀城市地域福祉計画等策定委員会」にある、「統計資料2 多賀城市地域福祉計画市民アンケート調査報告書」を参照してください。

(4) 分析結果の分類について

分析結果については、以下の3つの項目に分類しています。

【調査結果から分かったこと】

アンケート結果を読み取った中で特徴的な事柄について書いています。

【地域住民の皆さんに確認したいこと】

アンケートの分析結果に基づいて座談会を開催し、実際に地域住民の方々はどのように感じているか確認したい事柄について書いています。

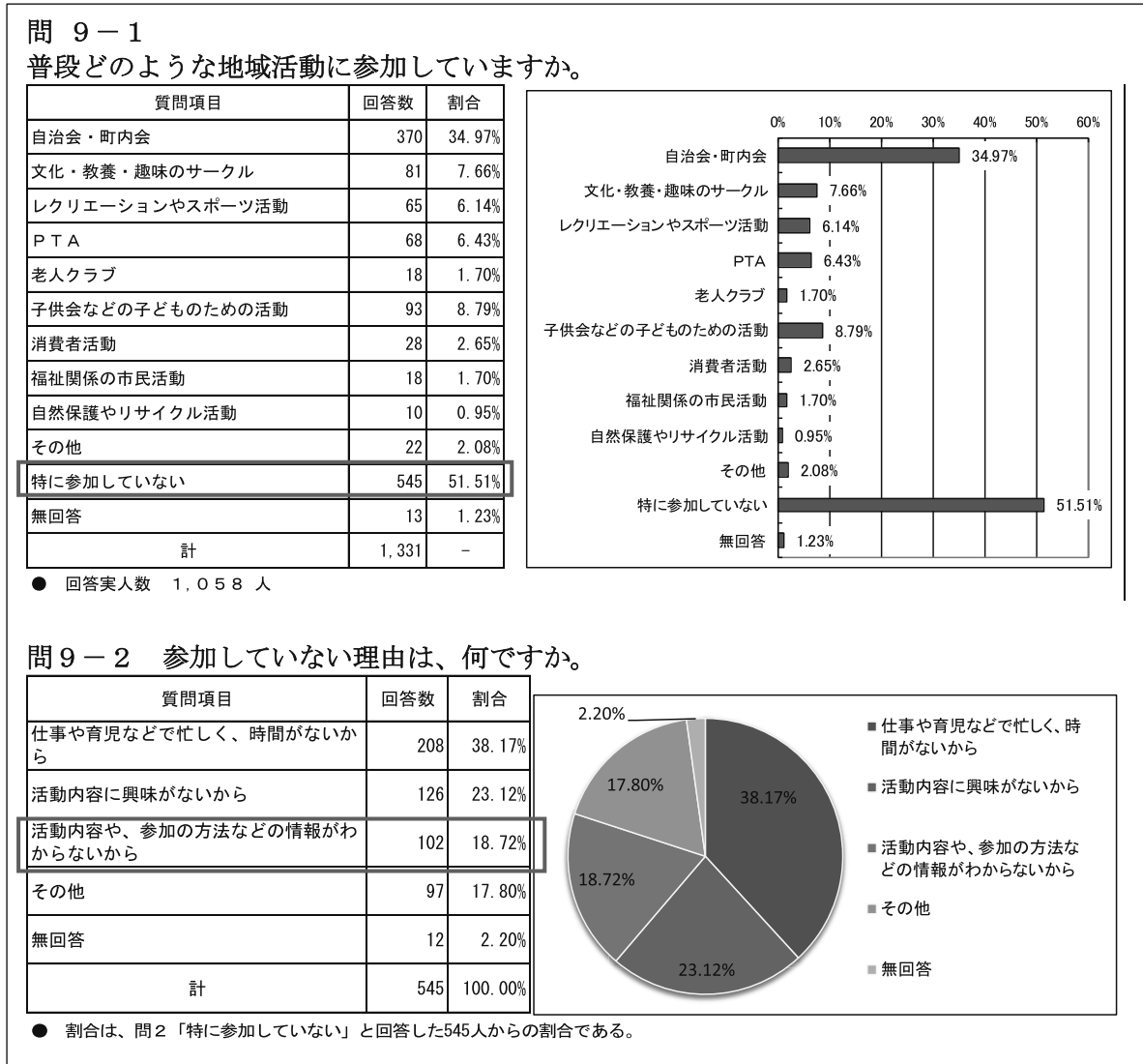
【活動計画に反映させたいこと】

調査結果の分析から、ニーズがあることが推測されるので、計画の体系の柱立てに反映させたい事柄について書いています。

多賀城市地域福祉計画市民アンケートの分析結果について

1、地域との関わりについて

(1) 地域活動に関すること



【調査結果から分かったこと】

- ① 「特に参加していない」が半数。
- ② 参加している内訳では「町内会」「PTA」「子供会」はどちらかと言えば必要に迫られた参加で、積極性があるかは不明であり「スポーツ」「消費活動」「福祉」「自然保護」などは積極性があると思われるが、ごく少数です。
- ③ 「活動内容や参加方法などの情報が分からない」が2割近くいます。

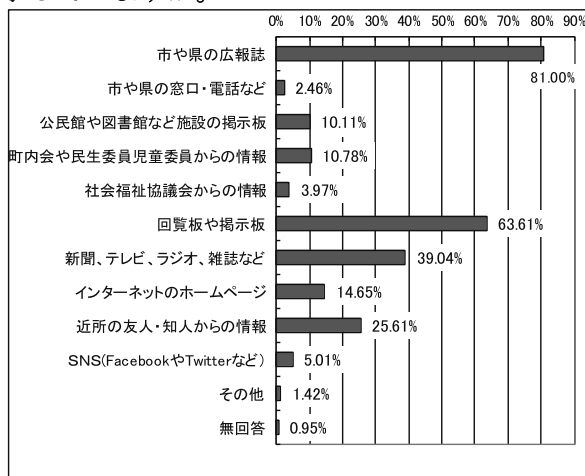
【地域住民の皆さんへ確認したいこと】

- ① 「特に参加していない」が半数を超えているが、他に社会とのつながりがあるから、地域活動に参加しないでよいのか、それとも、つながりたくても、何らかの壁があり参加出来ていないのか。
- ② 興味を持ったり参加したいと思うのは、どのような内容の地域活動か。

問 9 - 3

地域に関する情報をどのようにして入手していますか。

質問項目	回答数	割合
市や県の広報誌	857	81.00%
市や県の窓口・電話など	26	2.46%
公民館や図書館など施設の掲示板	107	10.11%
町内会や民生委員児童委員からの情報	114	10.78%
社会福祉協議会からの情報	42	3.97%
回覧板や掲示板	673	63.61%
新聞、テレビ、ラジオ、雑誌など	413	39.04%
インターネットのホームページ	155	14.65%
近所の友人・知人からの情報	271	25.61%
SNS (FacebookやTwitterなど)	53	5.01%
その他	15	1.42%
無回答	10	0.95%
計	2,736	-



● 回答実人数 1,058人

年代別の状況

		市や県の広報誌	市や県の窓口・電話	公民館や図書館などの掲示板	町内会や民生委員児童委員からの情報	社会福祉協議会からの情報	回覧板や掲示板	新聞、テレビ、ラジオ、雑誌など	インターネットのホームページ	近所の友人・知人からの情報	SNS	その他	無回答
		回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
20～29歳	回答数	37	2	9	2	2	24	22	12	15	8	2	0
	割合	57.81%	3.13%	14.06%	3.13%	3.13%	37.50%	34.38%	18.75%	23.44%	12.50%	3.13%	0.00%
30～39歳	回答数	99	4	20	7	0	64	32	36	25	12	1	0
	割合	78.57%	3.17%	15.87%	5.56%	0.00%	50.79%	25.40%	28.57%	19.84%	9.52%	0.79%	0.00%
40～49歳	回答数	170	4	15	13	4	115	47	42	47	16	4	3
	割合	84.16%	1.98%	7.43%	6.44%	1.98%	56.93%	23.27%	20.79%	23.27%	7.92%	1.98%	1.49%
50～59歳	回答数	144	4	15	9	3	105	59	33	25	10	1	0
	割合	84.71%	2.35%	8.82%	5.29%	1.76%	61.76%	34.71%	19.41%	14.71%	5.88%	0.59%	0.00%
60～64歳	回答数	97	1	7	11	4	79	34	10	23	3	1	0
	割合	89.81%	0.93%	6.48%	10.19%	3.70%	73.15%	31.48%	9.26%	21.30%	2.78%	0.93%	0.00%
65～69歳	回答数	89	2	11	17	4	83	57	11	32	0	2	0
	割合	81.65%	1.83%	10.09%	15.60%	3.67%	76.15%	52.29%	10.09%	29.36%	0.00%	1.83%	0.00%
70～74歳	回答数	88	1	8	17	11	77	61	4	32	1	1	0
	割合	87.13%	0.99%	7.92%	16.83%	10.89%	76.24%	60.40%	3.96%	31.68%	0.99%	0.99%	0.00%
75歳以上	回答数	127	7	21	37	13	120	98	5	69	3	3	3
	割合	76.51%	4.22%	12.65%	22.29%	7.83%	72.29%	59.04%	3.01%	41.57%	1.81%	1.81%	1.81%
無回答	回答数	6	1	1	1	1	6	3	2	3	0	0	4
	割合	50.00%	8.33%	8.33%	8.33%	8.33%	50.00%	25.00%	16.67%	25.00%	0.00%	0.00%	33.33%

【調査結果から分かったこと】

- ① 情報の入手先として、「市や県の広報誌」「回覧板や掲示板」が、全年代を通じて一番多く、次いで「新聞・テレビ・ラジオ」が多くなっています。
- ② 年代別では64歳までの方は、インターネットやSNSも利用していることから、情報の入手先が多様で使い分けをしています。
- ③ 65歳以上だと「友人・知人」から情報入手している方が多いことが分かります。

【地域住民の皆さんへ確認したいこと】

- ① 「社会福祉協議会からの情報」について、広報誌「社協だより」以外の情報の入手方法として、どのようなものがあるか。

【活動計画に反映させたいこと】

- ① 「活動内容に興味が無い」(約23%)「活動内容や参加方法 などの情報が分からない」(約19%)の住民の方々が、興味を持ち、情報にアクセスしやすい環境があれば地域活動の活性化が見込まれることから、従来の紙媒体での情報提供の他、若い世代がアクセスしやすい情報の入手先としてホームページやブログ、SNSが挙げられるので、今後の時代の流れを考慮し、それらを使用した、多様な情報発信を行うこと。
- ② 社協が主体となって、地域活動の必要性、重要性についての認識を高めること。

(2) 近所付き合いについて



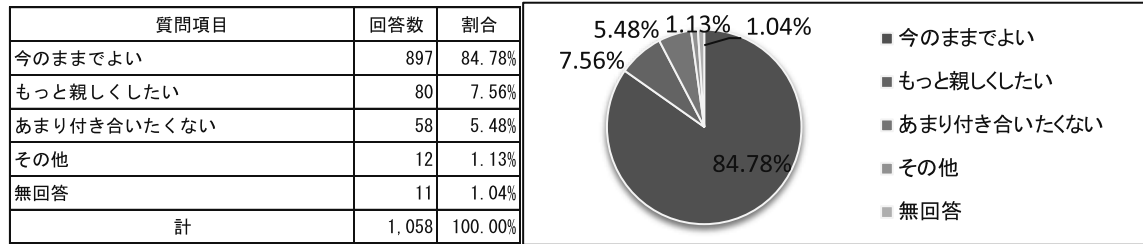
【調査結果から分かったこと】

- ① 「お互いに訪問しあう」「立ち話をする」「挨拶をする」を良好な関係と見ると、合わせて87%を占め、男女比では親しく付き合っているのは女性が多い状況です。
- ② 年代別では年齢が上がるにつれて「訪問しあう」「立ち話をする」率が上がり、「ほとんど付き合いはない」や「どのような人が住んでいるかわからない」はごくわずかになっています。
- ③ 逆に、75歳以上になると、「立ち話をする程度」の割合が減り、「ほとんど付き合いはない」の割合が増加しています。体力の低下やパートナーとの別れなどから、付き合いが減ってくるものと推測します。(クロス集計表)

【活動計画に反映させたいこと】

- ① 高齢になっても地域とつながりを保つ支援

問 1 1 近所付き合いについて、あなたのお考えはどれですか。



居住年数

		今のままでよい	もっと親しくしたい	あまり付き合いたくない	その他	無回答	計
1年未満	回答数	32	10	6	1	0	49
	割合	65.31%	20.41%	12.24%	2.04%	0.00%	100.00%
1～3年未満	回答数	74	5	5	3	0	87
	割合	85.05%	5.75%	5.75%	3.45%	0.00%	100.00%
3～5年未満	回答数	65	8	7	2	1	83
	割合	78.31%	9.64%	8.43%	2.41%	1.21%	100.00%
5～10年未満	回答数	86	13	11	0	1	111
	割合	77.48%	11.71%	9.91%	0.00%	0.90%	100.00%
10～20年未満	回答数	170	7	14	2	2	195
	割合	87.17%	3.59%	7.18%	1.03%	1.03%	100.00%
20年以上	回答数	468	37	15	4	3	527
	割合	88.80%	7.02%	2.85%	0.76%	0.57%	100.00%
無回答	回答数	2	0	0	0	4	6
	割合	33.33%	0.00%	0.00%	0.00%	66.67%	100.00%

【調査結果から分かったこと】

- ① 「居住年数」のクロス集計では、居住年数が1年未満で「もっと親しくしたい」と思っている方が、約20%います。

【活動計画に反映させたいこと】

- ① 地域のつながりのきっかけ作りの支援。（居住年数が短い方と地域をつなぐ支援）

(3) 日常生活の悩みや不安について



【調査結果から分かったこと】

- ① 「自分や家族の健康に関すること」が全年代で一番多いのはうなずけますが、「悩みや不安はない」が22%で意外に多くいます。
- ② 進学、就労、介護などの悩みは年代によって偏りがあるが、経済的問題に悩んでいる人は全年代で2割前後見られます。
- ③ クロス集計をみると、家族との関係に悩んでいる人が、50～60代と75歳以上で1割と少し多い傾向が見られます。

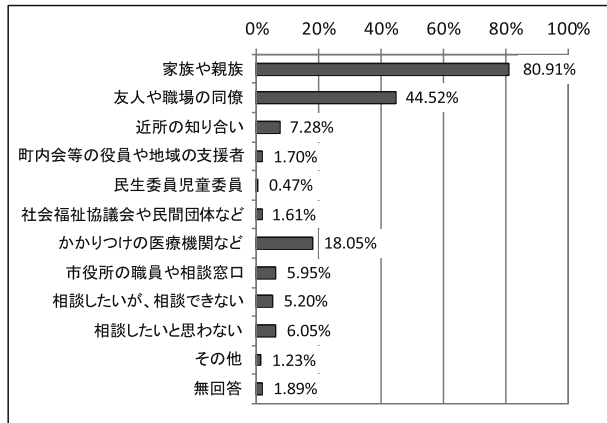
【活動計画に反映させたいこと】

- ① 民生委員・児童委員と連携しニーズの把握に努め、市と連携を深める。
- ② 生活困窮者等、困難を抱えた方の情報について、地域から相談されやすい体制づくりと関係先につなぐ取組み。

問 1 2 - 2

悩みや不安がある場合、誰に相談しますか。

質問項目	回答数	割合
家族や親族	856	80.91%
友人や職場の同僚	471	44.52%
近所の知り合い	77	7.28%
町内会等の役員や地域の支援者	18	1.70%
民生委員児童委員	5	0.47%
社会福祉協議会や民間団体など	17	1.61%
かかりつけの医療機関など	191	18.05%
市役所の職員や相談窓口	63	5.95%
相談したいが、相談できない	55	5.20%
相談したいと思わない	64	6.05%
その他	13	1.23%
無回答	20	1.89%
計	1,850	-



● 回答実人数 1,058人

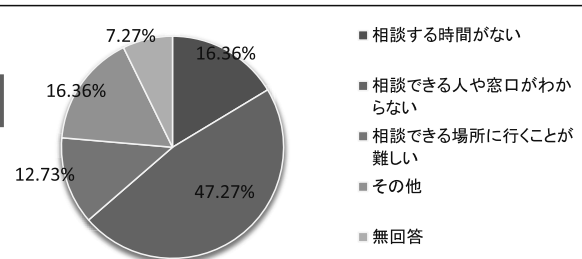
【調査結果から分かったこと】

- ① 悩みの内容によって相談先が違うと思いますが、多くの人はまず家族や友人など身近な人に相談しているのが分かります。

問 1 2 - 3

「相談したいが、相談できない」を選んだ方のみお答えください。その理由は何ですか。

質問項目	回答数	割合
相談する時間がない	9	16.36%
相談できる人や窓口がわからない	26	47.27%
相談できる場所に行くことが難しい	7	12.73%
その他	9	16.36%
無回答	4	7.27%
計	55	100.00%



● 割合は、問 1 2 - 2 「相談したいが、相談できない」と回答した 55 人からの割合である。

【調査結果から分かったこと】

- ① 「相談できる人や窓口がわからない」が約半数もいます。
- ② さらに「相談できる場所に行くことが難しい」を加えると、この2つで 60%の割合を占めるので、これらの困難さを解決して窓口につなぐことが課題です。

【地域住民の皆さんへ確認したいこと】

- ① 「相談できる場所に行くことが難しい」のは、足が無くて行けないのか、開設時間内に窓口に行くことが出来ないのか。

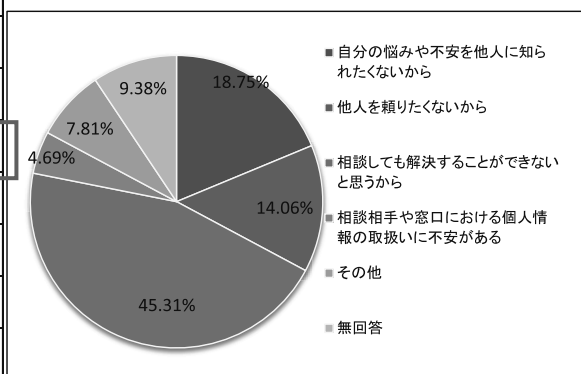
【活動計画に反映させたいこと】

- ① 相談場所、相談内容について、分かりやすくまとめた情報提供の仕組みづくり。
- ② 地域住民との顔が見える関係作り。職員の地区担当制の検討。

問 1 2 - 4

「相談したいと思わない」を選んだ方のみお答えください。その理由は何ですか。

質問項目	回答数	割合
自分の悩みや不安を他人に知られたくないから	12	18.75%
他人を頼りたくないから	9	14.06%
相談しても解決することができないと思うから	29	45.31%
相談相手や窓口における個人情報の取扱いに不安がある	3	4.69%
その他	5	7.81%
無回答	6	9.38%
計	64	100.00%



● 割合は、問 1 2-2 「相談したいと思わない」と回答した 6 4 人からの割合である。

【調査結果から分かったこと】

- ① 「相談しても解決することができないと思うから」が、45%と割合が高くあります。

【活動計画に反映させたいこと】

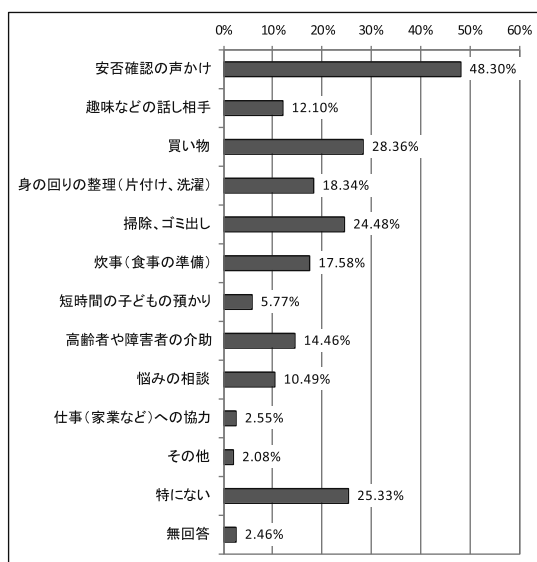
- ① 身近に気軽に相談できる相談場所の開設
- ② 相談場所、相談内容について、分かりやすくまとめた情報提供の仕組みづくり。

(4) 地域での手助け（支え合い）について

問 1 3

あなたが病気や事故、または高齢により日常生活が困難になったとき、近所・地域の人々にどんな手助けをして欲しいですか。

質問項目	回答数	割合
安否確認の声かけ	511	48.30%
趣味などの話し相手	128	12.10%
買い物	300	28.36%
身の回りの整理（片付け、洗濯）	194	18.34%
掃除、ゴミ出し	259	24.48%
炊事（食事の準備）	186	17.58%
短時間の子どもの預かり	61	5.77%
高齢者や障害者の介助	153	14.46%
悩みの相談	111	10.49%
仕事（家業など）への協力	27	2.55%
その他	22	2.08%
特にない	268	25.33%
無回答	26	2.46%
計	2,246	-



● 回答実人数 1,058 人

【調査結果から分かったこと】

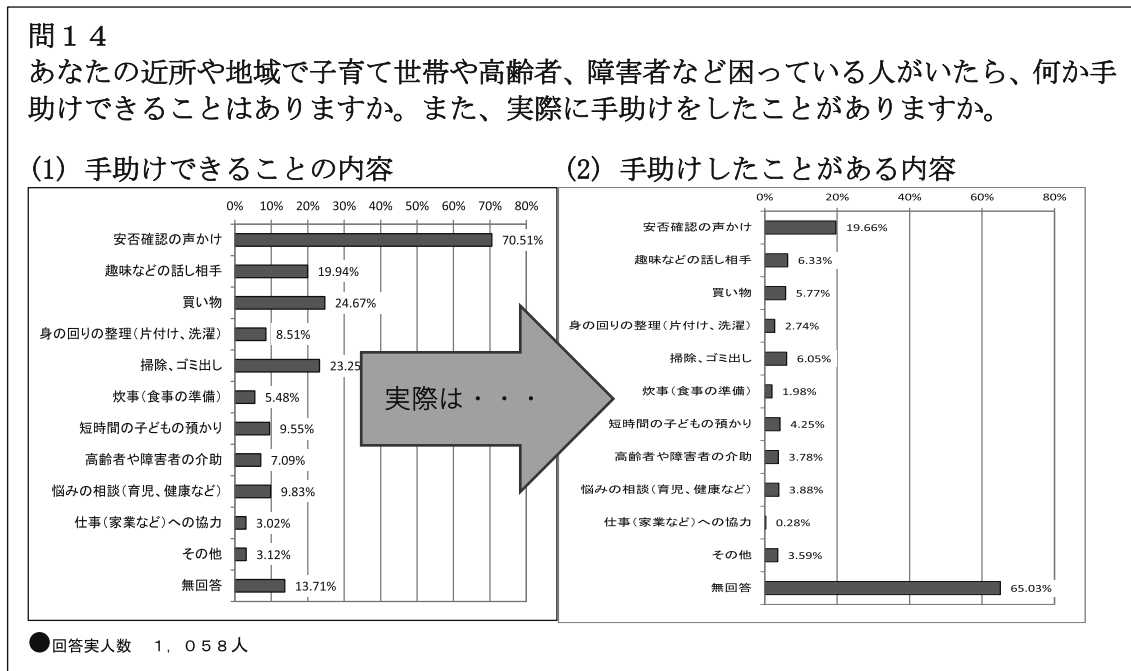
- ① 「安否確認の声かけ」や「買い物」「掃除ゴミ出し」など、日常的なことについての数値が高くなっています。
- ② 「特にない」が 25%と数値が高くなっています。

【地域住民の皆さんへ確認したいこと】

- ① 「特にない」人たちは、本当に助けが必要ないのか、それとも助けてもらうことについて抵抗感が強いのか。

【活動計画に反映させたいこと】

- ① 助けてもらうことへの抵抗感を減らし、「助けて」と言えるような価値観の醸成。



【調査結果から分かったこと】

- ① 特に「安否確認の声掛け」や「買い物」「掃除ゴミ出し」など日常的な比較的平易なものをはじめ、「手助けできること」として多くの項目が挙げられているが、実際に「手助けしたこと」となると、手助けは出来ていない状況が明らかになりました。

【地域住民の皆さんへ確認したいこと】

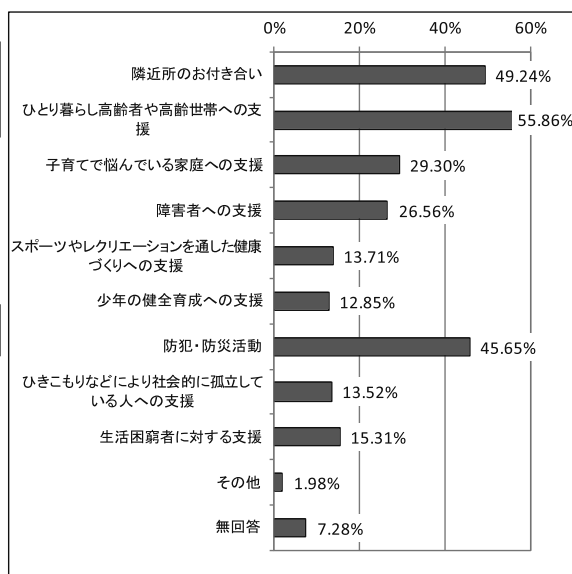
- ① 「手助けしてほしいこと」「手助けできること」「手助けしたこと」について、地域の状況を確認したい。

【活動計画に反映させたいこと】

- ① 「手助けできる」思いを持っている人は多いが、実際に「手伝いをしたことがある」人は少ないため、行動に移すためのきっかけ作りとニーズに上手くマッチングさせる仕組み作り。

問15 近所や地域の人たちが支え合い、取り組んでいかなければならないことは何だと思いますか。

質問項目	回答数	割合
隣近所のお付き合い	521	49.24%
ひとり暮らし高齢者や高齢世帯への支援	591	55.86%
子育てで悩んでいる家庭への支援	310	29.30%
障害者への支援	281	26.56%
スポーツやレクリエーションを通じた健康づくりへの支援	145	13.71%
少年の健全育成への支援	136	12.85%
防犯・防災活動	483	45.65%
ひきこもりなどにより社会的に孤立している人への支援	143	13.52%
生活困窮者に対する支援	162	15.31%
その他	21	1.98%
無回答	77	7.28%
計	2,870	-



● 回答実人数 1,058人

【調査結果から分かったこと】

- ① 特に「近所付き合い」「高齢者世帯」「防犯・防災活動」の関心が高いです。

【地域住民の皆さんに確認したいこと】

- ① 問10「近所の方とどの程度のお付き合いをしていますか」との問いに、「あいさつする程度」が5割を占めている。しかし、この問いにおいては、取り組むべき事柄として「隣近所のお付き合い」が、約5割と高い数値となっている。このことから、本当の気持ちは、もっと近所付き合いをしたいと思っているのではないか。

【活動計画に反映させたいこと】

- ① 誰もが孤立することなく支え合える地域づくり
- ② 防犯・防災活動をきっかけにした地域づくり・つながりづくり